別紙2　令和7年度　自己評価書　作成日：令和8年1月20日　国分寺市立第五小学校　校長名　齋藤　晃

教育目標：

目指す学校像：保護者や地域から信頼される学校

目指す児童・生徒像：子どもたちが主体的に学び活動する学校

目指す教師像：教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	分析コメント	改善策
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力の育成	情報を活用した主体的・対話的な学びの実現	○課題解決にGIGA端末や、既習事項、新聞、図書資料 等情報を活用し、主体的・対話的な学びを実現する授業改善を図る。 ○「国分寺学」や各教科で協働的な学びや、校内・地域へ発信等、豊かに表現する学習活動の充実を図る。	3	3	4	4	教員評価 「めあてを考えさせたり、学習の進め方を選ばせたりするなど、子どもに学びを委ねる工夫」について、64%と回答率が低かった。自由進度学習等、児童が主語の主体的な学びにチャレンジしていこうとしている発展途上にあることが原因と考えられる。	自由進度学習等、児童の主体的な学びについて追求していく。主体的な学びをテーマに、昨年度から取り組んできOJT研修における実践授業を生かし、効果的な方法について、教員同士で共有し、さらに実践を重ねていく。
		基礎学力の確実な定着 体力の向上	○算数習熟度別指導や東京ベーシックドリルの活用を通して、個別最適な学び方や既習事項等基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○体力調査の結果をもとに、体育指導の改善や外遊びの工夫を推進し、運動の楽しさを味わわせる。	2	3	4	4	教員評価 ・個別最適な指導については、一定の評価が得られた。 ・「体育指導の改善や外遊びの推進」について、73%と回答率が低かった。暑い日が続き、外で遊ぶことができない日が多かった。体育指導について苦手意識をもっている教員が多い。 ・校内研究の成果を日常の授業に少しずつ生かせるようになってきている。	・算数では、東京ベーシックドリルの結果を個別化することで対象児童を明確にし、基礎基本の内容の定着を図る。 ・今年度は、体育の学習に校内研究で取り組んでいる。自分の課題を明確にし、校内研究で学んだことを授業で実践する意識を高める。
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切にする子どもの育成	地域・保護者の人材、教育材を生かした、郷土に根差す学習活動の開発	○コミュニティ・スクール協議会等の機能を生かし「国分寺学」を中心に、地域と連携を深める教育活動を継続・発展する。 ○「国分寺学」の推進や中学生ボランティア等、一中学区で小・中連携の取組を行う。	1	2	4	4	教員評価 ・「地域人材等を活用し、児童に体験的な活動をさせようとした」「コミュニティ・スクールであることを意識したり活用したりする」について、50%台と回答率が低かった。各学年、地域人材を生かした授業を毎年展開することはできている。 ・予定通り地域人材を生かした授業を実践できたことで前期より評価が上がった。	・毎年取り組む地域人材を生かした授業が明確な分、ニーズや思いから新しい授業に挑戦することが少ない。授業の協力等地域に働きかけたり、地域に学習成果の発信したりするなど、コミュニティ・スクールとしての価値を改めて意識し、授業を計画していく。 ・総合的な学習の時間と生活科の年計を見直し、各学年柱となる授業を大単元として内容を精査して位置付けていく。
		学校の教育活動について保護者・地域に理解を得る。	○保護者・地域からの情報や学校の課題を、コミュニティ・スクール協議会で検討し、内容を保護者・地域へ発信する。 ○学校からの発信方法について、紙、メール、ブログのよさを組み合わせ、分かりやすく積極的な情報発信を行う。	1	2	4	4	教員評価 「教育活動の様子を複数の通信手段を活用し、それぞれの良さを生かした分かりやすい発信」について、54%と回答率が低かった。昨年度からの上記課題を受け、今年度は情報と発信手段の整理をしている。臨機応変に判断する場面もあり、多少の混乱があったかと考える。	ICT・広報部が中心となり、発信内容と発信手段について記録している。必要な情報であるのか、必要であれば適した発信手段は何か整理整頓し、来年度に引き継ぐようにする。ブログによる発信は、いつ、誰が、何を、どの程度活用していくのか整理していく。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育の充実	子どもが安心して楽しく学校に通うことができる。 子どもが自分や友達、一人一人を大切にできる。	○特別支援や、スタートカリキュラムの理念を生かし、一人一人の多様性を認めた指導を行う。 ○いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。 ○学校教育全体を通して道徳教育に取り組み、授業のキーワードを校内に掲示する。	4	4	4	4	教員評価 「多様性の理解」「自他を大切にしたり思いやったりする気持ちの育成」「挨拶の指導」「一人一人の良さを認める」について、高い回答率となった。児童理解の重要性について、教職員間で共通理解を図れたことや個別の支援を必要とする児童に対する組織対応の成果であると考える。	道徳授業のさらなる質の向上を通して、自他を大切にする心を育てる。校内委員会では、、個別の支援を要する児童について、組織対応できるよう今後も手立てを考え、職員で共有していく。せんだん職員による理解教育の実施を全学年で実施し、多様性を認める大切さについて低学年のうちから意識できるようにしていく。
		自尊感情、自己肯定感の向上 学校や学級への帰属意識の高揚	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整える。 ○縦割り班活動等の充実を図り、活動を通して異学年と交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。	4	4	4	4	教員評価 「挨拶や言葉遣いの指導」について、96%と回答率が高かった。各学年の実態や発達の段階に合わせ、日常から声を掛けてくることができた。	挨拶は、時と場合を意識させ、挨拶が当たり前になるよう指導を継続していく。 クラブや委員会、縦割り班活動を通して、異学年交流の推進を図る。交流のめあてを設定するなどし、具体的な見通しをもって活動を進められるようにしていく。